

農林水産業分野

気候をつくり、植物工場で育てる作物。 船引を元気にする栽培ノウハウ事始め。

プランツラボラトリー株式会社 (東京都港区) 事業実施場所：田村市

実用化計画開発期間 平成 29 年 10 月～平成 32 年 2 月

耐気候型屋内農場における大型イチゴ生産の自動化



全天候型「プットファーム」が出来ること

寒暖の大きい中山間地で春夏秋冬、季節を問わずに大型（大果）で食味に優れたイチゴを生産できる。そうした農業の自動化をテーマに掲げて開発を行っています。

栽培から収穫・出荷までの工程で生じる作業負担から解放される、低コストの屋内農場を実現して農業の新たな可能性を探ります。当プロジェクトは当社と東京大学、宇都宮大学との共同体制で進められます。タマゴ大ほどに成長するイチゴの品種を選定して平成 30 年の春、田村市船引町で実証栽培がスタートする予定です。

ビニールハウスを思わせる省エネ型屋内農場システム「プットファーム (PUTFARM)」が建てられました。温度・湿度をコントロールして室内環境を高原のように、南国のように…と最適化。この施設には東京大学との共同研究による新発想・新提案が盛り込まれ、旧来の「土づくり」を重視する基本的な農法に代わって「気候づくり」に基づく栽培の可能性を開ける点が特徴です。アルミ製の特殊金属膜が熱を反射するので、外気温による影響は皆無なまでに抑えられます。

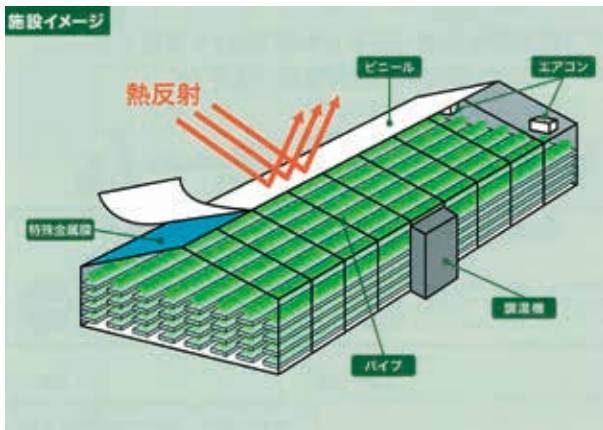
標準型・耐強風型・寒冷地型として設計されるプットファームは、さらに鉄骨パイプとビニールを組み合わせたシンプルな構造と外

観です。これら3タイプは建設コストとランニングコストを抑え、データに基づく栽培技術を実践できる汎用モデルとの位置づけです。このほど田村市に設置したものは、現地の気象条件を考慮して「雪に強い」という特長も備えています。農業の身近で新しいカタチを、地元の皆様へ伝えていく場としても意義は大です。



プランツラボラトリー株式会社 代表取締役

湯川 敦之



新進の産地ブランドを 売り込みたい

大果イチゴの栽培が始まると、植物工場としてのプットファーム内部をLEDの光が照らし出すようになります。調湿機・エアコンで室内環境が制御された中、ロボットが作業スペースを移動して収穫作業を進めていく状況を想定しています。イチゴの生育状況、室内環境の制御、さらには一連の工程に関するデータを収集・分析してブラッシュアップを図り、ノウハウを運用レベルまで高めていきます。

年間を通してイチゴを出荷できるようになると農家は、コンスタントな収入源を確保できます。消費者は、時季にかかわらずイチゴを買い求める機会に恵まれるので生産する側、味わう側の双方にとって通年栽培のメリットは明らかです。家庭用・贈答用・ケーキへの加工用など、多用途に渡り安定した需要が期待できる大果イチゴ。まずは出口戦略の手始めとしてデパート業態ほか流通ルート、販売チャネルの想定を始めているところです。



6次化という、 ステップアップ路線も

栽培は当初、大果イチゴからスタートします。

オールシーズン体制で安定供給できる技術と仕組みが農家の皆様へ移行され、根づくことを願っています。これまでの常識に囚われず、新しい発想で前進しようとする地元との協力体制が大きな支えです。

イチゴや果菜類を素材として6次化を図り、田村市に生まれた新進ブランドとして売り出していく展望も開けます。適正な農業実践を認証する国際基準として、GLOBALG.A.P（グローバルギャップ）認証の取得支援メニューも含めた生産者支援統合サービスを構築します。

法人の概要

PLANTS LABORATORY

企業名：プランツラボラトリー株式会社

創業：平成26年11月4日

従業員数：11名

住所：〒107-0062
東京都港区南青山1-5-12 ガレット南青山

TEL：03-6432-9133

URL：<http://www.plantslaboratory.com>



事業内容

ユニークな発想から生まれるシーズを活かし、植物工場に関する研究開発・コンサルティング業務、農業資材と農産物の販売・卸売を行っています。産学連携にも意欲的に取り組み、東京大学 生態調和農学機構（西東京市）に実証実験施設があります。省エネ型屋内農場システム「プットファーム」には、ビニールハウス内部に遮断シートを施すほか工夫が凝らされています。